

# 生活単元学習における性に関する指導の実践的研究

— 附属特別支援学校中学部 2 組の生活単元学習の実践から —

坂井 直樹\*・吉富 恵子\*・藤本 貴子\*・齊藤 正浩\*・松村 淳子\*

Practical Research on the Instruction about Sexuality in Life Unit Study

— The practice of life unit study in a class in School for Children with Special Needs Attached to the Faculty of Education —

SAKAI Naoki\*, YOSHITOMI Keiko\*, FUJIMOTO Takako\*, SAITOH Masahiro\*, MATSUMURA Atsuko\*  
(Received January 10, 2012)

キーワード：性に関する指導、生活単元学習、知的障害

## はじめに

本校では、平成23年度より「『人とかかわる力』を育てる授業づくり」というテーマを設定し、研究に取り組んでいる。人とかかわるという場面を想定する中で、思春期に差し掛かった時に、課題となるものの一つが性に関することである。

学校教育は、児童生徒の人格の完成、豊かな人間形成を目的とし、生命尊重、人格の尊重、人権尊重など、民主主義の基本的な理念である人間尊重の精神に基づいて行われるものである。性に関する教育も、人間の性が人格形成の基本的な部分であるという理念を背景に行われてきた。しかし、近年では、性に関する価値観の多様化や社会環境の大きな変化から児童生徒の心身の発達において、性的成熟と社会的成熟にギャップが生じ、アンバランスが生じている（文部省, 1999）。

特別な支援を必要とする知的障害のある児童生徒においては、社会的な成熟に遅れが見られても、性的な発達は定型発達の児童生徒と変わらない（大井, 1989）ことから、性的成熟と社会的な成熟のギャップが更に大きいことが予想される。そのため、特別な支援を必要とする児童生徒への性に関する指導は、定型発達の児童生徒のそれよりもきめ細かに行う必要がある。なかでも、自閉症スペクトラムなど、発達障害の児童生徒には、その認知特性に応じた指導形態や教材・教具に工夫が必要であると考えられる。

ところで、本校における性に関する指導については、系統に沿った実践の積み重ねという部分で弱さがある。そのため、性に関する教育の指導計画などが全校体制の中で示されていないという実情がある。そのような中で、本校中学部の学級の生徒が思春期を迎え、様々な性に関する課題、とりわけ対人関係に関する課題や性についての知識に関する課題が近年浮上してきた。

そこで、本研究では、中学部の一学級において、彼らの課題解決を念頭に置いた性に関する指導を行うことによって、性に関する教育の課題を明確にする。そうすることで、本校における性に関する教育の新しい指導計画作成に寄与したい。

なお、本稿では、「性に関する指導」「性に関する学習」という呼称を用いている。従来から言われる「性教育」という言葉は、受け取り方によっては第二性徴や受精など、科学的知識を教える教育というように狭い範囲で解釈されることがある。そこで、これまでの科学的知識の部分に加え、性行動にかかわる危険回避や、望ましい人間関係の形成なども包含した内容とするため、「性に関する指導」「性に関する学習」とした。本論の中に「性教育」という言葉も使用しているが、これは、参考・引用した文献で用いられているものである。

\*山口大学教育学部附属特別支援学校

## 1. 本校における性に関する指導

### 1-1 本校の性に関する指導の経緯

本校は開校から間もなく個別の指導プログラムによって教育を進めてきた。このプログラムには、性に関する指導に関係すると考えられる項目が含まれてはいたが、系統立てた指導を行っていたという記録はない。ただし、石本ら（1995）が性教育の教育課程を作成しようとした先駆的研究が、唯一残っている。これは、1990年に改訂された本校の学習内容一覧表から性教育の内容を抽出して再構成し、性教育の学習内容一覧表を作成しようとする取組であった。その後、「性教育の取り組み（試案）」（1998）として一つの形にまとめられた。しかし、これ以降、性教育に関する指導計画や実践例はない。

### 1-2 性に関する指導の現状

現在、本校の性に関する指導は、学校全体で計画を作成し実施しているとは言い難い。しかし、本校の児童生徒にとってもこの指導は、人格形成のために不可欠であり、学校の教育活動全体で取り組んでいる。具体的には、日常生活の指導の内容である「着替え」の分野で身だしなみを整える指導を行ったり、「排せつ」の分野で、排せつ物の処理や性器周辺を清潔にするという指導を行ったりしている。また、特に女子生徒に対しては、個別に月経の手当の方法等についても指導を行っている。

## 2. 本校中学部の生活単元学習

### 2-1 本校中学部の生活単元学習

本校における生活単元学習は、「生活経験や人とのかかわりの広がりを目指し、テーマや目的がはっきりした、一連の流れのある活動を通して、生活に必要な事柄を実際的に総合的に学習していく」ことをねらいとしている。特に中学部では、生徒が経験する日常生活に必要な事柄が広範囲にわたるため、学部共通で扱う項目を「中学部生活単元学習指導内容一覧表」（以下、指導内容一覧表）（表1）としてまとめ、2008年より使用している。

### 2-2 生活単元学習と性に関する指導の関係

通常の学校における性に関する指導は、各教科・道徳・特別活動及び総合的な学習の時間の授業で扱う。特別支援教育においては、さらに、自立活動においても扱う。性に関する指導の内容は幅が広いと、例えば、保健体育の授業のみで行うということは考えられない。扱う内容を整理し、どの教科・領域で行うのか計画をしっかりと立てる必要がある。ただし、1-1、1-2でも述べたように、近年は具体的な取組の記録が無く、また、前述の「試案」も古いため、改訂の必要がある。このことから、「試案」を基本に捉えながら、山口県教育委員会作成の「発達段階における性に関する教育の学習内容例」（表2）を参考にして実践を行うこととした。表2は学校種別ごとに学習内容が分類されているが、本学級の生徒の発達の多様性や、学習内容を理解する力の開きなどから、場合によっては小学校段階の内容も取り入れて指導を行うこととした。

ところで、性に関する指導は、個別に行う場合と集団で行う場合とが考えられる。本校の教育課程上において、個別に指導を行う場合は、国語や数学、自立活動の時間における指導、日常生活の指導の時間が考えられる。個別の指導では、対象となる生徒の実態に応じて指導の内容を組み立てることが可能である。しかし、望ましい人間関係の形成を目指す場合には、個別の学習よりも集団での学習が適している。本校では領域・教科を合わせた指導と各教科の指導の両方を導入しているが、学級単位の集団ではない。そこで、学級で目的をもって一連の活動を系統的に行うことや、短期間に集中して学習時間を確保することができる、領域・教科を合わせた指導である生活単元学習において実施することとした。指導内容表の中では、主に「人とのかかわり」の部分が主な指導内容となる。

表1 中学部生活単元学習指導内容一覧表（山口大学教育学部附属特別支援学校, 2008）

| 領域          | 項目                  | 学習内容例       |                                   |
|-------------|---------------------|-------------|-----------------------------------|
| 社会生活        | 交通・移動               | 1. ルール・マナー  | 順番を待って乗降する。                       |
|             |                     | 2. 安全       | 左右を確認して、横断歩道を渡る。                  |
|             |                     | 3. 時刻       | 時刻や時間を確認して行動する。                   |
|             |                     | 4. 運賃       | 切符を買ったり料金を支払ったりする。                |
|             |                     | 5. 交通機関     | バスや電車を利用して移動する。                   |
|             | 買い物                 | 6. マナー      | 商品を大切に扱う。                         |
|             |                     | 7. 支払い      | レジで店の人にお金を渡す。                     |
|             |                     | 8. 値段       | 値段を確認して、商品を買う。                    |
|             |                     | 9. 品名       | 買う商品を見つけ、買い物かごに入れる。               |
|             |                     | 10. お金の管理   | 使ったお金や残りのお金を確認する。                 |
|             | 食 事                 | 11. マナー     | 席に座って食べ、静かに待つ。                    |
|             |                     | 12. メニュー    | メニューを見て食べたいものを選ぶ。                 |
|             |                     | 13. 注文      | 選んだメニューを店の人に伝える。                  |
|             |                     | 14. 支払い     | レジで店の人にお金を渡す。                     |
|             | 施設利用                | 15. ルール・マナー | 利用する施設の決まりを守る。                    |
|             |                     | 16. 公共施設    | 公民館や図書館等を利用する。                    |
|             |                     | 17. 娯楽      | ボウリング場や映画館等を利用する。                 |
| 家庭生活        | 調 理                 | 18. 準備      | 身支度（手洗い・エプロン着用等）を整え、調理器具や食材を準備する。 |
|             |                     | 19. 調理      | 調理器具を使い、切ったり炒めたりする。               |
|             |                     | 20. 安全      | 手元をよく見て、調理器具を使用する。                |
|             |                     | 21. 配膳      | 器を並べたり、器におかずを盛りつけたりする。            |
|             |                     | 22. 片付け     | 食器や調理器具を洗い、所定の場所に片付け、ゴミを捨てる。      |
|             | 衣 服                 | 23. 洗濯      | 洗濯機を使用する。洗濯物を干したりアイロンをかけたりする。     |
|             |                     | 24. 衣服の調節   | 目的や気温にあった服装を整える。                  |
|             |                     | 25. 裁縫      | 針と糸を使って、簡単な縫い物をする。                |
|             |                     | 製作          | ものづくり                             |
| 27. 作業      | 必要な道具を使って、ものを作る。    |             |                                   |
| 28. 安全      | 手元をよく見て、道具を正しく使用する。 |             |                                   |
| 29. 片付け     | 使った道具を所定の場所に片付ける。   |             |                                   |
| 人との<br>かかわり | 集団生活                | A. 集団       | 自分が所属する集団を意識し、集団の動きに合わせて活動する。     |
|             |                     | B. 役割       | 自分の役割を理解して行動する。                   |
|             | コミュニケ<br>ーション       | C. 伝える      | 自分の気持ちや必要な事柄をことばや身振りで伝える。         |
|             |                     | D. 聞く       | 相手の話や説明を聞く。                       |
|             |                     | E. 見る       | 話をしている人に注目する。                     |
|             |                     | F. 読む       | 書かれたもの（文字、絵、図など）を読み取る。            |
|             |                     | G. 書く       | 自分の気持ち、必要な事柄などについて、文字や絵などで表現する。   |

表2 発達段階における性に関する教育の学習内容例（山口県教育委員会, 2008） \*一部改編あり

|  | 小学校  |  |  | 中学校   | 高等学校  |
|--|--|--|--|---|---|
|  | 低学年  | 中学年  | 高学年  |   |   |
| 目<br>自<br>分<br>に<br>関<br>す<br>る<br>こ<br>と                | <p>「わたしたちのたいせつなからだ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の汚れと清潔</li> <li>・清潔感・気持ちの安定</li> </ul> <p>因</p> <p>「自分の性別」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場所の区別</li> <li>・男女の排泄方法の違い</li> </ul>  | <p>「いのちのつながり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いのちの誕生</li> <li>・いのちのつながり</li> </ul>   | <p>「大人に近づく私たち」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期の心</li> <li>・大人になる喜び</li> </ul> <p>因</p> <p>「大切な命」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の成長と変化</li> <li>・生命誕生</li> </ul>   | <p>「変わってきた心と体(思春期)」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心と体の成長</li> <li>・個人差</li> </ul> <p>「性の不安や悩み」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心や体の変化</li> <li>・悩みの解決のしかた</li> </ul> <p>因</p> <p>「思春期の心と体」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の変化の受容</li> </ul>   | <p>「性衝動と性行動」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生理現象の個人差</li> <li>・性行動のコントロール</li> </ul> <p>因</p> <p>「性の悩み」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・性行動のコントロール</li> <li>・余暇の利用</li> </ul>  |
| 目<br>男<br>女<br>の<br>人<br>間<br>関<br>係                     | <p>「みんなともだち」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女の遊びや仲良くする方法</li> <li>・弱い者いじめや仲間はずれ</li> </ul> <p>因</p> <p>「仲良く遊ぼう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を大切にすること</li> <li>・友達と仲良くする態度</li> </ul>   | <p>「男女なかよく」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女のちがひ</li> <li>・男女の協力</li> </ul>  | <p>「異性とのかわり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異性に対する意識の変化</li> <li>・異性との接し方で気づけること</li> </ul> <p>因</p> <p>「仲良く活動しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女の心の違い</li> <li>・男女の助け合い</li> </ul>   | <p>「性行動のリスク回避」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恋愛行動のリスク</li> <li>・性行動の責任</li> </ul> <p>「互いに尊重し合う男女交際」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに尊重し合うコミュニケーションの在り方</li> <li>・支配しようとする愛</li> </ul> <p>因</p> <p>「男女交際」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異性への思いやり</li> <li>・異性との接し方</li> </ul>   | <p>「男女の交際の在り方」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女の心情の違い</li> <li>・男女の対等な人間関係</li> </ul> <p>「性と人権～DVから～」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの人格完成</li> </ul> <p>「STDとその予防」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・STDの理解</li> <li>・予防のための行動</li> </ul> <p>因</p> <p>「異性の尊重」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異性への思いやり</li> <li>・男女の協力</li> </ul>   |
| 目<br>家<br>族<br>や<br>社<br>会<br>と<br>の<br>や<br>り<br>と<br>り | <p>「かぞくっていいね」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の必要性</li> <li>・家族にとって大切なこと</li> </ul> <p>「しらない人からのさそい」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知らない人からの誘い</li> <li>・場に応じた対応の仕方</li> </ul> <p>因</p> <p>「家庭での手伝い」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での役割やルールがあること</li> <li>・家族の助け合い</li> </ul> | <p>「助け合う家族」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での仕事の認識</li> <li>・家族の一員として協力することへの自覚</li> </ul> <p>「テレビやマンガと私たち」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビやマンガの長所と短所</li> <li>・情報の選択の仕方</li> </ul> | <p>「ネット社会にひそむわな」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット社会の危険性</li> <li>・ネット社会で安全に過ごす留意点</li> </ul> <p>因</p> <p>「マナーを守ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体のプライベートゾーン</li> <li>・相手の気持ち</li> </ul> <p>因</p> <p>「自分の役割」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の一員としての役割</li> <li>・家族の協力</li> </ul> | <p>「メールによるコミュニケーション」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出会い系サイトなど匿名と匿名</li> <li>・メールによるコミュニケーションの在り方</li> </ul> <p>「男女平等の社会」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女の違い</li> <li>・能力や適性を生かす</li> </ul> <p>「AIDSと差別」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AIDSによる差別の実態</li> <li>・共に生きる社会の実現</li> </ul> <p>因</p> <p>「性の被害者にならないために」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場に応じた正しい判断</li> <li>・性被害への対処の仕方</li> </ul> <p>因</p> <p>「社会の一員として」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会のルール</li> <li>・他者への思いやり</li> </ul> | <p>「ライフスタイル(家族計画)」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族計画の意義と避妊法</li> </ul> <p>「性とメディア情報 性の商品化」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品化された性の問題点</li> </ul> <p>「これからの生き方」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の愛情と自尊感情</li> </ul> <p>因</p> <p>「性のトラブルに巻き込まれないために」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ち</li> <li>・正しい判断、行動</li> </ul> <p>因</p> <p>「将来の生き方」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的マナー</li> <li>・望ましい人間関係</li> </ul> |

目：自分に関すること 異：男女の人間関係 社：家族や社会とのかわり 因：特別支援学校

## 2-3 中学部2組の生活単元学習の取組

中学部2組ではこれまで、良好な人間関係を形成する学級づくりを中心課題にし、友だちや教員とのかかわりに焦点を当てて授業を構成してきた。生徒5名は、特に生活単元学習の調理活動の中でペアを組んで協力して作業を行ったり、活動の振り返りの時間に必ず一人一人の発表の時間を設けることによって、友だちの意見に対して評価するという活動を取り入れたりしてきた。こうした活動を通して、学級の中で自分の意見がはっきりと言える環境ができ、生徒は安心して学級で過ごすことができている。また、これらの活動の継続によって、これまでは難しかった5名での話し合い活動が可能になり、時に意見の合わない時でも、折り合いを付けていくことができるようになってきた。

## 3. 生活単元学習「大きくなった私たちⅠ」の実践

### 3-1 単元

単元名「大きくなった私たちⅠ」

### 3-2 目標

- 現在の自分の体や心の状態に気付く。
- 成長した自分がこれからどのようにふるまっていけるかが望ましいか、考え実行する。

### 3-3 単元の展開（総時数14時間）

本単元は、3つの小単元と1時間の振り返りの時間で構成した。3つの小単元はそれぞれ独立したのではなく、生徒の意識の流れに沿って設定したものである。

### 3-4 小単元1「ぼく・わたしの生い立ち」

#### 3-4-1 小単元1のねらい

- 自分の生い立ち年表を作成し、写真を時系列に見ていくことで、自分が成長していることに気付く。
- 生い立ちに関するエピソードを知ることによって、これまでの自分にどのようなことが起こったかを知る。

#### 3-4-2 小単元1の指導の実際

本学級の生徒は、体の成長が定型発達の生徒とほぼ同じであるのに、人前で母親と過度に密着をしたがったり甘えたりという行動が見られる者がいる。家庭でそのような行動を行うのはよいが、人前で行うという事は社会通念上、好ましいとは言いがたい。このような様子が見られることには二つの理由が考えられる。一つは自分が人からどう見られているかという意識が薄いこと。もう一つは小さかった時に許されていた行動が今でも許されると思っている、つまり、自分がまだ小さいころのままであるという意識が生徒自身にあることである。そこで、小単元1「ぼく・わたしの生い立ち」では後者に焦点を当てていくこととした。これは、生徒の実態からみて、後者の内容がより緊急性があると判断したためである。



図1 生い立ちの学習



図2 生い立ち年表の作成



図3 掲示した年表

実践に当たっては、自分の体が成長していることを視覚的に理解させることを目指した。具体的には、スライドを用いて自分や友だちの小さいころの写真を見た。

家庭で写真を選ぶ時には、本人を立ち会わせるように保護者に依頼していたこともあり、生徒は自分の小さい頃の写真が示されると、自分の姿であることがすぐに理解できた。小さい頃から現在までの写真スライドを視聴しながら、「小さい時とどこがどんなふうに変ったか」という発問をすると、「体が大きくなった」という反応がかえってきた。また、小さい頃の写真では男女の区別がつかなかったが、成長するにしたがって、その区別がつくようになっていた。しかし、区別の視点は、着衣の形や色が中心であった。

スライド視聴で自分たちの成長の事実が把握できたことから、次時では自分たちの写真を時系列に並べて自分の年表を作ることとした。ただ、写真を貼り付けるだけでなく、保護者から得た情報を併せて伝えながら作成を促した。できあがった年表は、年齢を揃えて掲示し、全員を比較しながら体の変化について気付かせた。年表は、常に目に届くところに掲示しておき、いつでも振り返ることができるようにした。また、保護者がいつでも見るように、長期間掲示した。

### 3-5 小单元2「体と清潔～プライベートゾーンって?～」

#### 3-5-1 小单元2のねらい

- 成長してから一人でできるようになったことを話し合いながら、今後一人でできそうなことを知る。
- 入浴の際に洗うべき場所を知る。
- プライベートゾーンを知り、自分の体を守る手段を話し合う。

#### 3-5-2 小单元2の指導の実際

自分の体に変化したことを知るためには、自分の体を意識する場面を設定することが有効であると考えた。生徒が日常生活で自分の体を意識する場面のひとつとして、入浴の場面を取り上げた。入浴の際に体を洗う場所を細かく意識させることによって、体の部位一つ一つを生徒が確認をすることができるように考えたからである。

本小单元における入浴の指導は、

- ① 体の部位をわかりやすくするために、視覚的に捉えやすい教材を用意した。
- ② 入浴の場면을意識させるために、本校の生活訓練棟「芙蓉館」の浴室で授業を行った。（図4）
- ③ 自分と他人を比較することができるように、集団での指導を行った。

の3点に留意して行った。

その結果、①では、図5に示す自作のプレートを用いて、体を洗う学習を進めている時間帯に提示し続けたことにより、生徒は自分の活動を振り返ることができた。

②の芙蓉館浴室における学習は、生徒にとっても初めての経験であり、関心度が高かった。浴室での指導ということで、体の洗い方という一点に生徒は意識を集中させることができた。

③では、もともと他者との比較が目的であったが、学習を進めるうちに、体の部位をみんなの前で口に出して発表するという活動が「恥ずかしい」という声も聞かれた。普段、体のことに関して恥ずかしいという言動が見られなかった生徒がこのような発言をしたことから、活動を通して他者を意識し始めたことが推察される。



図4 芙蓉館浴室での学習

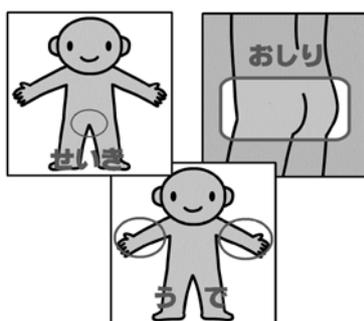


図5 洗う部位を示すプレート



図6 体洗いの手順表



### 3-7 学習の成果

性に関する学習は、前述したように、単に性行動に関する科学的な知識の理解を目指すものだけではなく、人と人との関係性について学ぶ学習であると捉える。本単元では、具体的な性の知識を伝える学習というよりは、性に関する基礎的な学習を行いながら、人とのかかわりに関する課題を解決する学習に主軸を置いた。単元を実施する直前まで生徒たちが抱えていた課題（異性への過度の密着や相手に対する暴言など）がかなりの割合で減少していった。このことが、学級内での人間関係をさらに良好なものとした。

表3 中学部2組生徒による記述（生徒記述のまま）

|          | 人にされてうれしいこと  | 人にされて嫌なこと   |
|----------|--|---|
| 言葉に関すること | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ドンマイ（と言ってもらう）</li> <li>○ありがとう（と言ってもらう）</li> <li>○ほめられる</li> <li>○大丈夫？（と言ってもらう）</li> <li>○やったね！！（と言ってもらう）</li> <li>○あいさつ</li> <li>○元気出してね（と言ってもらう）</li> <li>○ガンバレ！！（と言ってもらう）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●人の体のことをとやかく言う</li> <li>○うわさ話をされる</li> <li>○うそをつく</li> <li>○ばかにされること</li> <li>○うらぎったこと</li> <li>○わるくち</li> </ul>   |
| 行動に関すること | <ul style="list-style-type: none"> <li>○あそんだこと</li> <li>○あくしゅ（を求められる）</li> <li>○はくしゅ（をしてもらう）</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●はだかを見られる</li> <li>●胸を触る</li> <li>○けんかをする</li> <li>○暴力をされる</li> <li>●着替え中を見られる</li> <li>○人を殴る</li> <li>●男の人が女の人の体をさわる</li> <li>○いじわるはいやです</li> <li>○自分の物を見られること</li> </ul> |

●・・・性に関すると考えられるもの ( )内は筆者が付加した

## 4. 性に関する指導の今後の展望

### 4-1 学校全体での推進

本研究を開始するに当たり、本学級生徒の性に関する課題が緊急性を帯びていたことから、学校全体や中学部内での共通理解を得ないまま実践を開始した。性に関する指導は、発達に応じた内容の系統性を考慮しながら進めていくことが重要であると考え。また、学校全体で、性に関する指導についての共通理解や、性に関する指導を推進していくための研究を並行して進めて行く必要がある。本校では校務分掌にも性に関する指導の担当者が位置付けられていることから、担当者を中心とした学校全体での推進が今後望まれる。

### 4-2 性に関する指導計画作成

学校全体での性に関する指導の推進を行う上で、指導計画作成は必須である。養護教諭や性に関する指導担当者を中心として、本校で作成されていた「性教育の取り組み（試案）」（1998）をもとにしながら、早急な改訂を行っていく必要があると考える。

近年、積極的に性に関する指導に取り組んでいる特別支援学校がある。それらの学校の実践を参考にしながら、本校独自の指導計画作成を進めていきたい。

### 4-3 家庭との連携の在り方

#### 4-3-1 学級通信や配布文書による連携

本単元における実践は、保護者の協力や理解がなければ実施することができなかった。そこで、保護者と連携・協力をしていくために学級通信や配布資料によって性に関する学習の趣旨を伝えた。また、必要な資

料や情報を保護者から提供してもらうためにアンケートも実施した。図10のようにアンケートには事細かく情報が記載されており、中学部2組の保護者の性に関する学習の関心度の高さがうかがえた。さらに、学習を実施するたびに臨時に発行した学級通信で授業の様子を保護者に伝えた。(図11)

#### 4-3-2 保護者が求める性に関する指導

保護者が取り組んでほしいと考えている性に関する学習内容について、自由記述アンケートを実施した。「中学部2組では、性に関する学習を継続して取り組んでいきます。そこで、保護者の皆様がこういった性に関する学習や、人とのかかわりに関する学習に期待すること、取り上げてほしいと考えている内容を是非教えてください。」という質問に対して保護者からの回答は以下の通りであった。

- 自分の心や体の成長をわかってほしい。
- プライベートゾーンのこと、今後の成長のことなどわかりやすく教えてほしい。
- いつかは来る思春期特有のことについて、こちら（保護者）側の受け止め方と対応の仕方。
- 生理に関すること。（例えば生理の時はどういう風に過ごしたらよいのか。それはどうしてそうしなければいけないか。生理用品はそっと隠してトイレに行くこと。）
- 子どもが理解できる程度に合わせてよいですが、本当の事、正確に教えてあげたい。
- 体の成長には家のほうでも言葉で伝えているが、はっきりと言えずごまかしていることが多い。本人も意味が分かっているのか、不安な面がある。

これらの意見から、今回、性に関する指導を行ったことは、保護者のニーズに合致していると考える。また、今後男女別に行うほうが有効である指導内容（月経に関することなど）や、性に関する言葉をどれだけ正確に詳細に伝えていくかについて、保護者との連携しながら今後検討していく必要がある。

中学部2組保護者の皆様  
 中学部2組担任 坂井直樹

生活単元学習に関するアンケート

単元「大きくなった私たち」に関するアンケートです。下記の項目にご記入をお願いします。ご記入いただける範囲で結構です。

1 各年齢におけるエピソード  
 お取りした写真の紹介と、そのころにあったエピソード（もしくは写真のエピソード）を簡単に記入してください。

| 年齢  | 写真の紹介 | エピソード                                      |
|-----|-------|--|
| (例) | 入学式   | この時はまだ不安なことが多くて泣いてばかりいました。(その時の様子の写真のことです) |
| 0歳  | お誕生会  | 1歳に満たない状態で入園して、初めての経験でとても緊張していました。         |
| 1歳  | お誕生会  | 初めての経験でとても緊張していました。                        |
| 2歳  | お誕生会  | 初めての経験でとても緊張していました。                        |
| 3歳  | お誕生会  | 初めての経験でとても緊張していました。                        |
| 4歳  | お誕生会  | 初めての経験でとても緊張していました。                        |
| 5歳  | お誕生会  | 初めての経験でとても緊張していました。                        |
| 6歳  | お誕生会  | 初めての経験でとても緊張していました。                        |
| 7歳  | お誕生会  | 初めての経験でとても緊張していました。                        |
| 8歳  | お誕生会  | 初めての経験でとても緊張していました。                        |
| 9歳  | お誕生会  | 初めての経験でとても緊張していました。                        |
| 10歳 | お誕生会  | 初めての経験でとても緊張していました。                        |
| 11歳 | お誕生会  | 初めての経験でとても緊張していました。                        |
| 12歳 | お誕生会  | 初めての経験でとても緊張していました。                        |
| 13歳 | お誕生会  | 初めての経験でとても緊張していました。                        |
| 14歳 | お誕生会  | 初めての経験でとても緊張していました。                        |

\*裏面に続きです

図10 保護者アンケート（一部抜粋）

「大きくなった私たち」の学習風景

生活単元学習「大きくなった私たち」は子どもたちも大変興味を持って学習を進めているところです。今号では、これまで学習したことをご紹介いたします。子どもたちには家でできることがあったら取り組むようにと伝えておりますので、ここに記載していることを参考に、ぜひご家庭でも取り組んでいただけたら幸いです。

わたくしはだれでしょう？

5人が持ち寄った写真をもとにクイズを作りました。小さいころの写真を見て、「男の子なのか女の子なのか」「これはだれの写真なのか」ということで非常に盛り上がりました。現在の自分と比べて、体が大きくなって自分が成長したことをみんな自覚しました。

昔の自分を時々振り返ることで、今の自分をより良くしていくこととするのはとても大切なことです。お家でも時々アルバムをひらいて、自分を振り返る経験をしてください。

私の生い立ち年表

それぞれの写真をもとに、1歳ごとの年表を作りました。クイズで用いた写真を、改めて手元で見ながら年表に貼っていきましょう。

年表を並べてみると、子どもたち一人一人がこれまで歩んできた道を感じる事ができました。同時期の自分の写真と友達の写真と比較する子もいて、自分と他の人の違いや同じところを感じ取る事ができていたのではないかと感じます。

年表は学級の壁下に掲示していますが、休み時間にも友達同士で見合う姿が見られます。※しばらく掲示していますので、機会がありましたら是非ご覧ください。

体と清潔

これまでの学習から、自分の体が成長したことが分かりました。その分、自分の体にももう少し気をつけてもらおうということ。また、宿泊学習も近くなったことから、自分の体を清潔に保つ学習を行いました。この学習では養護教諭の松村先生にも参加していただきました。

まずは、自分が普段の入浴の際にどこをどう洗っているかを確認しました（もちろん順番を替えます）。授業の場所は英音館の大浴場。まさか風呂場で授業を行うとは思っていませんでした。子どもたちも少しびっくりした様子でした。併せて、自分の入浴スタイルを他の人に見られるということに少し緊張している生徒もいました。

この授業で使った入浴の手順が載っている資料を、この通信に付けていますので、是非お家でも実践してください。（出典：「お風呂にはいるう」奥田文化研究会 インターネットからも入手できます。）

※「プライベートゾーンって？」「みんななかよく①②」の様子は金額別発行の通信でお伝えします。

図11 学級通信（一部抜粋）

## おわりに

性に関する指導は、学校の教育活動全体の中に適切に位置づけられる必要がある。しかし、扱う内容については、各教科等によって違いが生じるが、その際にバラバラに内容を扱うのではなく、そこに指導内容の連係が必要である。また、個別で指導を行う場合と集団で指導を行う場合の2種類の指導形態が必要であるため、それぞれで扱う内容の系統性についても今後検討しなければならない。

併せて、家庭や地域との連携は欠かすことのできない要素である。特に保護者に対して、性に関する指導の重要性について情報を伝えつつ、積極的な性に関する指導を今後も推進していきたいと考える。

## 謝辞

本実践を行うに当たり、単元の趣旨をご理解いただき、写真等の検索や様々な情報提供をしてくださった中学部2組の保護者の皆様に感謝いたします。

## 参考・引用文献

- 石本正之・古田千鶴江・山本知子：「性教育の教育課程を目指して」『山口大学教育学部附属養護学校 平成7年度障害児教育研究協議会研究資料「個人指導プログラムに基づく教育活動の展開」』1995.
- William J. Kreidler&Lisa Furlong：対立がちからに一グループづくりに生かせる体験学習のすすめ— みくに出版 19-20, 2001.
- 大井清吉：「性発達は普通の子どもとかわらない」『ちえおくれの子の性指導』福村出版 p.12, 1989.
- 岡多枝子：だれでもできる性教育プリント フォーラム・A 1992.
- 間宮 武：「性教育」『現代性科学・性教育事典』小学館 254-257, 1995.
- 文部省：学校における性教育の考え方,進め方 ぎょうせい 1999.
- 尾藤りつ子：性と生をどう教えるか第2版 解放出版社 2005.
- 風呂文化研究会：浴育のすすめシリーズ 親子でおふろを楽しむための絵本「おふろにはいろいろ！」2010.
- 山口県教育委員会：学校における性に関する教育～見つめる、かかわる、響きあう～ 2008.
- 山口大学教育学部附属特別支援学校：平成18年度研究集録 2008.
- 山口大学教育学部附属養護学校：性教育の取り組み（試案）1998.